

SPEED CAFE



文=吉田慎也
text: Shinya Yoshida
写真=森近 真
photograph: Makoto Morichica

SURESHOT
Tel 043-312-0900
<http://sureshot.jp>





エキパイはエンジンにできる限り寄せ、サイレンサーは腹下へ配置。そうすることでスリムな車体が実現化される。フロントキャリパーはニップルの中ボルトをダブルで装備。トリプルツリーはワンオフ。フロントカウルの中にはメーター類を収納。ダミーカバーも今後オリジナルプロダクトとして開発計画に入っているという。オーリス製のリアサスペンション、ハンドルのスイッチ類、マフラーは原料や溶剤への耐久性に優れたセラコートで仕上げている。「コースを走るたびに新たな発見があるので楽しいですね」と相川氏。



オリジナルアイテムとしてリリースする各パーツ。「スピードスリムタンク」「スピードカフェシートカウルセット」「カーボンサイドカバー」「スピードカフェカウル」それぞれに黒ダグコード仕上げとカーボンの選択が可能。04年以降のスポーツスターにネットオフが装着できるように開発。決して空っぽではないが、すべてのアイテムを装着しフェンダーストラットをカットすれば、今までの車軸と同じ外装の空回りには手に入るということになる。このスタイルをすべてワンオフになれば、それこそ真価なフルカスタムになる。



千葉県八街市にてショップを構える「シュアショット」が製作した06年式XL1200Rをベースとしたカスタムバイク。「ホルトオンパーツで現行のスポーツスターをカッコ良くできたらと思って」とビルダーの相川氏。

フロントカウル、タンク、シートカウルをカーボンで製作し、それをショップオリジナルプロダクトとして販売する。「セミホルトオンですね。フェンダーストラットを切っているので……残しておいてもいいのですが、ない方がスッキリしているかなと思って。それ以外はフレームにも手を入れていないので手軽に装着できて、ガラッと雰囲気が変わるかなど。カーボンなので軽量化にもなり、現行のスポーツの少し太めのリアまわりをスッキリしつつ、全体を細く見せるためのアイテムなんだからいい感じにできたかな」

外装はオリジナルプロダクト開発の試作として突き詰め、タンクとリアカウルとオイルタンクカバーはすでにリリースしている。フロントカウルとフロントフェンダーに関しては今後試作を重ねていくという。

外装のインパクトに目を奪われてしまいが、それ以外の箇所も同店のこだわりと技術がふんだんに仕込まれている。例えばフロントフォークはホンダ製CBR900を流用し、トリプルツリーは重量を考慮してワンオフ。マフラーもデザイン性とバンク角を考えた可能な限りエンジンに寄せ、横幅をとらないように腹下へとサイレンサーを配置している。前後18インチのホイールサイズもフロント重視のブレーキの選択、ケツ上がりのスタイルはレーサーらしさを表現するためである。「コースで全開で走るのは楽しいものもありますが、ここで得たデータをこれからのバイク作りにフィードバックできればと思っています。このバイクもまだまだ突き詰めていこうと思っています」と同氏。ワンオフからオリジナルプロダクトへ、個性を発揮する選択肢が多様化していく。